

プラスチックについて

長野県長野工業高等学校 建築学科

柰津湖子 瀧澤朱美

テーマ設定の理由

- ・プラスチックが私たちの生活にどのような影響を与えているのか気になったから。
- ・今後プラスチックとどのように関わっていくべきか考えるため。
- ・プラスチックと海はどのような関係があるのか疑問に思ったから。

定義

プラスチック…合成樹脂を加工したもの

マイクロプラスチック…5mm以下のプラスチックのこと

現状

プラスチックの生産量は約3.8憶トン。これは全人類の体重には匹敵する重さで、そのうち800万トン(東京ドーム約7個分)は陸地から海にたどり着く。このままいけば2050年には魚よりもプラスチックのゴミが多くなると予想されている。また、海岸特利の量が増加についで、一度とのかみは、海に漂着したゴミの影で世界で2番目に多い。プラスチック類のごみが一消費は、海岸特利の量が増加についで、一度とのかみは、海に漂着したゴミの影で世界で2番目に多い。



しかし、プラスチックがなくなってしまうといま私たちが使っている多くのものがこの世の中からなくなってしまう。例えば、スマートフォンや車、飛行機、複合機もなくなってしまう。そして、食品に関しては、保存期間がほとんどなくなり、運搬にものすごいエネルギーがかかります。そのため、食べられるものが限られてきてしまいます。

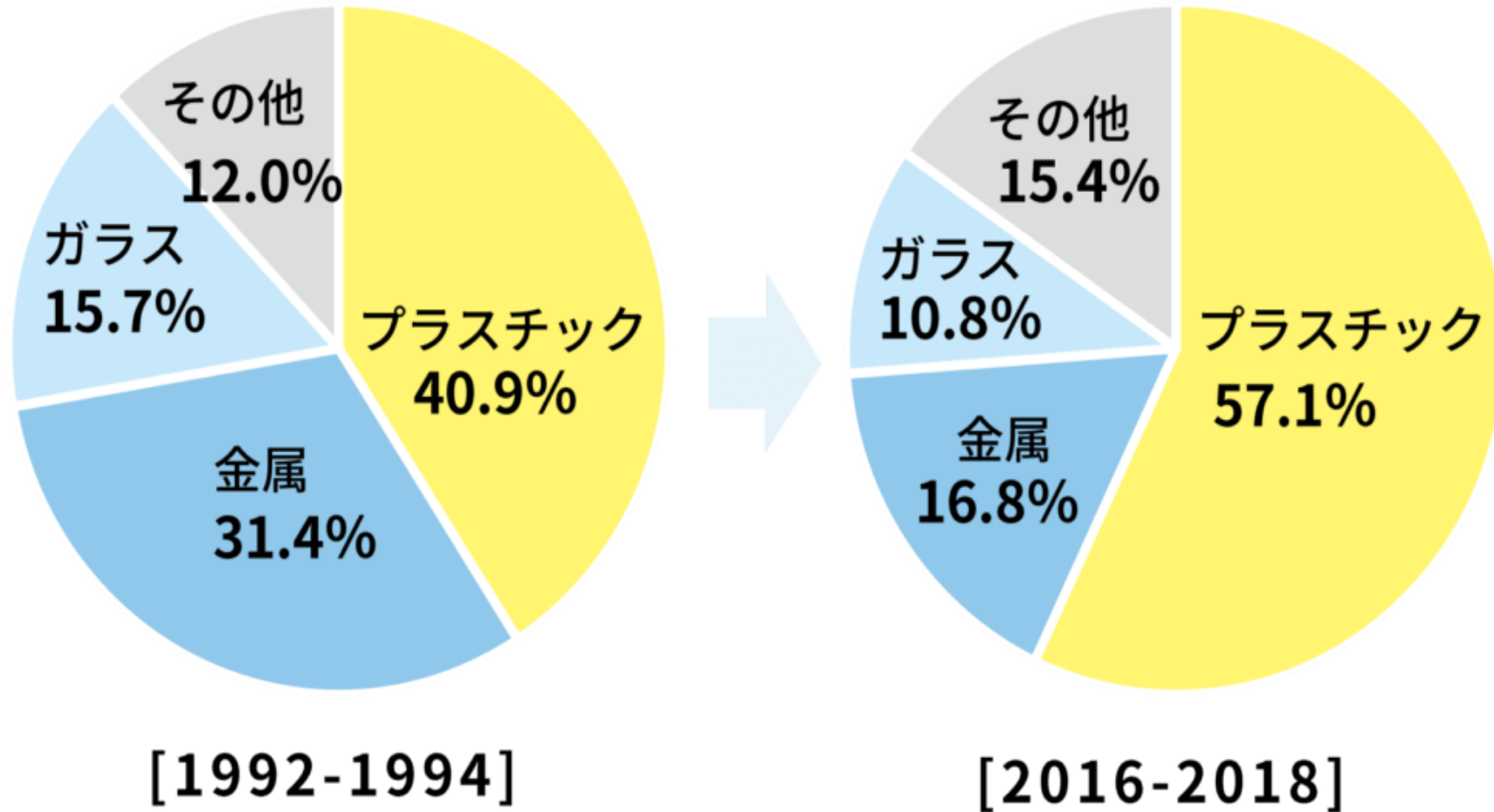
問題点

- プラスチックは魚たちに大きな影響がある。
網に絡まって動けなくなってしまうで死んだり、ビニール袋などを食べて窒息死してしまう。



- 燃やすと有毒ガスが発生するものがある。

海に流れつくゴミの種類の変化



メリット

- ・複雑な形状の製品を効率よく生産できる
- ・軽い
- ・断熱性が高い
- ・腐食しない

例

- ・強度upのための複雑なリブ構造
- ・自動車部品の軽量
- ・住宅の断熱性
- ・排水管

デメリット

- ・環境への影響
- ・環境条件による性能低下

例

- ・マイクロプラスチック
- ・高温化での強度低下

今後の課題

- 海にプラスチックを捨てない。
- 3Rを心がける。
- プラスチックを紙や再生可能なものに変える。
- ポイ捨てしない。

SDGs 実現のための10代からの提言

- ・ 企業で再生可能な資源を生み出したり、今あるプラスチックを再生可能な資源に変える。
- ・ 土に還る商品をたくさん作る。

考察・感想

- プラスチックは、今の私たちの暮らしには欠かせないということがわかった。しかし、向き合い方によっては、今後の地球環境に大きな影響を及ぼしてしまうことがわかった。
- 日常生活から、一人一人が自分の行動に責任を持ちながら生活していくことが大切だと感じた。